

## 平成30年度 ふるさと海辺フォーラム報告書

日程 8月11日(土)～8月12日(日)

参加者

サンクチュアリーエヌピーオー (5人)

名取ハマボウフウの会 (1人)

NPO 法人ゆい (5人)

きたねむろ山菜エコランド (2人)

NPO 法人いしかり海辺ファンクラブ (2人)

石狩市環境保全課 (1人)

8月11日(土)

◇14時の開会の前に、いしかり海辺ファンクラブと環境保全課で白羽海岸を散策。正面に大きな砂丘が見えたが、これは防潮堤(高さ13m)に砂を被せたものだった。植物は、ケカモノハシなど石狩にない物があった。また、波打ち際には小石が異常に多かった。



◇各団体活動報告

1) サンクチュアリーエヌピーオー「遠州灘海岸の今」

現在、4つの問題がある

①海岸のレキ化

アカウミガメの産卵地を守るための公共事業として、浸食された海岸に砂を入れる工事を行っているが、ある時期から天竜川の浚渫砂の捨て場となり、海岸がレキだらけになって、子ガメの放流が難しくなった。

②野球場建設問題

海岸近くに野球場建設の計画があり、野球場ができると、ナイターの明かりで子ガメの

放流が難しくなる。

### ③マイクロプラスチックの問題

33年間にわたるビーチクリーンアップの効果はなくいまだにゴミが散乱している。

対策として、ビーチクリーンアップは継続し、ゴミ箱10基を設置した。

マイクロプラスチック問題については、観察会での啓発、マスコミへの周知のほか、デポジット機を設置した。また、静岡県 の 道徳の副読本に理事長の書いたマイクロプラスチックについての啓発文が掲載された。

※デポジットシステム

一定金額を預かり金として価格に上乗せ、容器を返却すると預かり金が戻るシステム

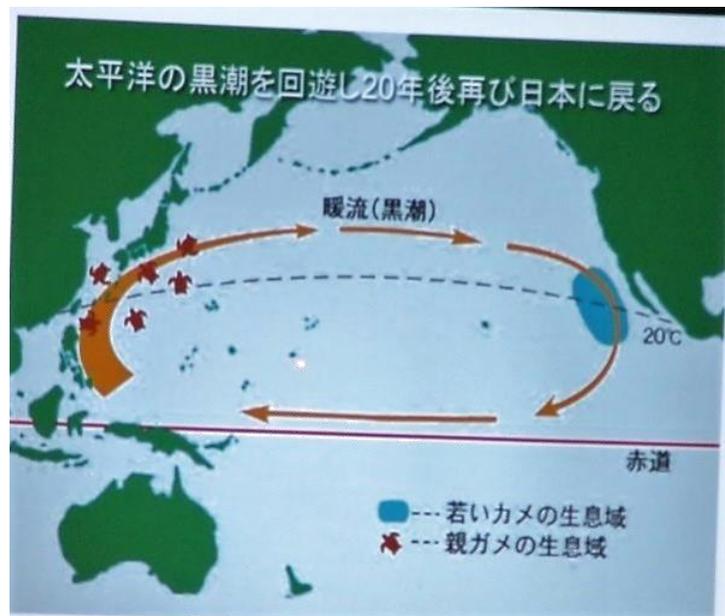


※今後は、マイクロプラスチック ゼロ プロジェクトを進めていく。

### ④ビーチスポーツ振興

ウミガメの生態系に影響が出ないように競技者や浜松市、静岡県と協議していく。

※アカウミガメの回遊



◇当日ふ化した子ガメ約 100 匹を放流



8月12日(日)

◇5時30分より白羽海岸へ

○アカウミガメの産卵調査をする予定だったが、産卵場所が遠かった為、卵の保護柵を観察した。



産卵場所に放置すると盗難、車での踏みつぶしが発生するので、毎日産卵を確認して、専用の保護柵内へ移している。



今朝ふ化した子ガメ。これを、放流する。

○白羽海岸の状況

- ・昨日の報告のとおり、レキが砂浜をびっしり覆っていた。
- ・台風などでの浸食が激しく、削られた砂浜には、砂とコウボウムギの種子を入れたコーヒー豆用麻袋を積み、回復を図っている。



---

## ◇各団体活動報告

### 1) きたねむろ山菜エコランド「地域との連携から生まれる海辺の環境保全」

- ・ハマボウフウは、かつて 100 万円の売り上げがあったが、近年は耕作者の高齢化によりほとんどなくなって、ギョウジャニンニクが主となっている。
- ・他の耕作者の養成をしたいが、収穫機をわざわざ買ってまでやろうとする人はいない。

### 2) 石狩市環境保全課

- ・石狩の海岸は保護条例で守ってきた。
- ・はまなすの花でいっぱいの石狩の原風景を取り戻すべく、はまなす再生プロジェクトを実行している。
- ・石狩浜海浜植物保護センターの運営を、平成 29 年度からいしかり海辺ファンクラブに委託している。
- ・近年は、アズマヒキガエルなど外来種の侵入が問題となっている。

### 3) 特定非営利活動法人いしかり海辺ファンクラブ

いしかり海辺ファンクラブの独自活動と石狩浜海浜植物保護センター運営事業のふたつについて詳しく報告。

### 4) 名取ハマボウフウの会

- ・平成 13 年設立。「海岸のお花畑づくり」「ハマボウフウ栽培畑設置」「海岸環境保全啓発活動」を柱に活動。
- ・平成 23 年 3 月、東日本大震災にみまわれる。
- ・復興に向けて、平成 23 年 6 月に他団体の支援を受け、名取で「ふるさと海辺フォーラム」を開催。
- ・平成 26 年、活動の 3 拠点(臨空公園栽培畑、第 1・第 2 海岸保護区)完成。
- ・平成 26 年、石狩中学校との連携が始まる。
- ・平成 27 年、石狩中学校との連携が恒例化。

### 5) NPO 法人 ゆい「湘南からの報告 2018」

- ・観察会、植栽会、ハマボウフウ苗の市民へ提供、講演会など湘南の海浜植物とふれあいながらの生態系の保全・再生活動を行っている。
- ・今後の課題
  - ①ハマニガナの種子繁殖(それ以外の植物は成功、ハマボウフウも絶滅危惧種とは言えない程増殖)
  - ②生育地が限られている現状での生物多様性の保持。
  - ③生育域が多目的用途の場所である場合のルール作り。
  - ④自然環境の大切さをいかに次世代へ伝えるか。

---

・特産物作りの模索

◇アカウミガメの卵の観察

今朝産まれたタマゴを観察。



以上が、2018年ふるさと海辺フォーラムの概要である。(2018,8,17 報告 NPO法人いしかり海辺ファンクラブ)